

「第1回大都市水道局大規模災害対策検討会」を開催

平成30年12月21日（金）に都庁にて「第1回大都市水道局大規模災害対策検討会」を開催し、19大都市（札幌、仙台、さいたま、東京、川崎、横浜、新潟、静岡、浜松、名古屋、京都、大阪、堺、神戸、岡山、広島、北九州、福岡、熊本）から各防災主管課長と係長39名が参加しました。

本検討会は、南海トラフ巨大地震発生時に想定される給水車3千台以上不足（日水協報告）や、首都直下地震発生時に想定される大量の医療機関が断水した場合の応急給水対応などの、災害対応において水道界が直面している大きな難題に対して、19大都市の防災実務者が一丸となって検討を行っていく必要があると東京都より提案し、今年度新設したものです。

第1回検討会では、運営要綱の決定をはじめ、平成30年に発生した大阪府北部地震、北海道胆振東部地震及び西日本豪雨等の大規模災害の対応報告を行うとともに、南海トラフ巨大地震の課題対策案80件の抽出を行いました。

今後は、東京都と仙台市、神戸市が事務局として、検討会を定期的で開催し、来年度中には、南海トラフ巨大地震の実効性のある対策を策定し、水道界にその対策の普及を進めていくことを決定しました。

